

# 熱海「陽明館」国の有形文化財に

## 文化審答申 昭和初期の別荘建築の特色示す



国の有形文化財への登録が答申された「陽明館」—熱海市桃山町で

国の文化審議会は16日、熱海市桃山町の昭和初期の別荘建築「陽明館」を国の有形文化財（建造物）に登録するよう、柴山昌彦文部科学相に答申した。登録されると、県内の登録数は235件となる。

市教委と所有者の世界救世教によると、陽明館は1939（昭和14）年に元本州製紙社長の田辺武次氏が建築させた別荘。木造2階建てで瓦ぶき、建築面積約160平方メートル、相模湾を望む岩戸山の麓南縁に位置する。し

やれた数寄屋意匠の和風が基調ながら洋室を備える点は、熱海に残る別荘建築の特色をよく示すという。不動産会社の所有を経て同教団が58年に購入し、陽明館と名付け、教主公邸として利用した。現在は教団関係者

の茶席や生け花の展示に使っている。

同教団の所有する同市春日町の別荘建築「東山荘」も一昨年、同文化財に登録されている。

教団広報委員会の岡田福蔵事務局長は「教団ゆかりの建造物が顕彰されることを大変喜ばしく思う。今後は一般公開も検討したい」と話した。

【梁川淑広】